



卒業式式辞

校長 山口 貴治

北の大地に柔らかな光が降り注ぎ、草木が冬の眠りから目を覚まし始めた 3 月、札幌市立屯田北中学校 3 年生 234 名が旅立ちのときを迎えました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

第 21 期の卒業生である皆さん一人一人に、今、中学校の教育課程の修了を証明する卒業証書を渡しました。その証書は、9 年間の義務教育を終えた足跡であり、本校の歴史に皆さんの存在が刻まれた証であります。それを手にして、何を感じ、何を想うのでしょうか。

令和 5 年 4 月の入学式。屯田北中学校の制服に身を包み、「未来を志向し 豊かな心をはぐくみ たくましく歩む生徒」という本校教育目標のもと、皆さんの中学校生活がスタートしました。夢を膨らませ希望を胸に、新たな仲間達とその第一歩を踏み出したのでした。

中堅学年と言われる 2 年生に進級し、屯田北中学校の手足としてその活動の幅を広げ始めた令和 6 年。中学校生活 2 度目の春を迎え、目標に向かって頑張ろうという気持ちがあったと思いますが、先生方が入れ変わりクラス替えの影響もあってか、年度初めは集団の自治力が低下し落ち着きのない状態となりました。自覚に欠けた行動がマイナス面で全体へと広がっていたのでした。しかし、その年の北中祭辺りから意識が変わりはじめ、3 学期の雪中レクリエーションでは、学年全体の雰囲気も上向いてきたと聞いております。

そして、屯田北中学校の「顔」となった 3 年生としての生活。「Be Pride」を学年スローガンに据え、軸を知り、軸をつくり、軸で生きることを重点目標として地に足を付けた日常活動が進められました。「ひまわり」をスローガンとした生徒会活動も 3 年生が中心となって本部会をリードし、また委員会や部活動などでは、1, 2 年生の見本となるべくその横顔や背中でもやるべきことを示していたのでした。

このように、中学校生活の 3 年間で成長という形の変化を繰り返してきた皆さんでしたが、ここで、私が感じた 3 年生の皆さんへの印象をいくつか話します。

昨年 4 月に朝の玄関に立ったとき、明るい笑顔で返す生徒さんが意外と多く、人懐っこさを感じました。さらに、日に日にその挨拶の声は増え、今ではほとんどの人が声や表情で表現するようになりました。その結果、3 年生の皆さんへの親しみが増し、相互承認の第一歩となる挨拶のよさを改めて感じたのでした。

先生方との関係性にも 3 年生らしさが見て取れました。学級によってその表現の形は違うのですが、普段の学活や行事などでの関わりから、特に担任の先生方への信頼感を感じます。もちろん、思春期と言われる中学校時代ですから、ときには感情が大きく揺れ動き、自己主張や周囲への反発などあったでしょうが、先生方が皆さん一人一人を受け止め、ときには寄り添いながら支援や指導を粘り強く行っていたことへの感謝が、良好な関係性につながっていたと思います。10 組の優しさに包まれた雰囲気も素敵で、とても居心地が良かったです。

また、修学旅行やスポーツ大会、そして感動いっぱいの北中祭で皆さんが発したエネルギーが忘れられません。特に修学旅行の学年レクリエーションでは、参加した人全員が盛り上がる、そんな一体感が生み出された最高の瞬間でした。学年協議会の企画と進行も素晴らしく、学年としての課題もある中ででしたが、「これは、良い集団になっていくな」と手ごたえを感じた瞬間でもありました。

皆さん一人一人に目を向けても成長点はたくさんあるでしょうが、自分の力だけでここまで来たわけではないことを理解していますか。保護者、先生方、地域の方など周りのいろいろな大人達の指導やサポートがあったことを忘れてはいけません。もし、気付かなかつたり恥ずかしくて言えていなかった人は、今日は身近の人への「感謝の心」を表現し、伝えてくれたら嬉しいですね。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。子ども達にとって安心・安全な学校であり続けるという点でご心配をおかけしたこともあったかと思いますが、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいたことを、改めてお礼を申し上げます。先ほども申しましたが、小学校卒業期など感染症により、大切な時期に多くの制限を強いられた子ども達であります。その分も、というわけではございませんが、今日のよき日を大いに喜び、お祝いいただけたらと思います。もちろん、まだまだ大人の階段を上っている途中ですので、これからも保護者という立場から様々な形の愛情を注ぎ、支え励ましていただけたらと思います。

さて、卒業生の皆さんは、4 月からは次の扉を開き新たなステージへと進むこととなります。義務教育を終え、社会の形成者として責任を負うべき大人により近づきます。世の中に目を向けますと、やまぬ紛争、飢餓・貧困、異常気象、そして日本でも、少子高齢化と人口減少、物価高騰と、様々な問題があります。

人生 100 年時代と言われていますが、こういった社会問題を憂いてばかりではいけません。予測することが難しく変化の激しい今の世の中ですが、自分らしさを失わずに生きていけるよう学び続け、ときには周りとの協働し、立ち足はだかる壁を乗り越えてほしいと思います。先日行われた相澤先生による学年道徳に、自分らしく生きる大きなヒントがあると思います。

今は目の前の目標に向かって進む人がほとんどでしょう。それは悪いことではありません。ただ、視野を広げたり遠くを見据える目も備えていくことが、大人へ向かう皆さんには必要なことだと思います。

途中で目標を見失いそうになったり、疲れて前に進めないときは、休みつつ、周りに助けてもらってください。

また、屯田北中学校で学んだことを思い出して、ピンチを乗り越えてくれたら嬉しいです。屯田北中学校の教職員一同、これからも皆さんを応援しています。

最後に、これから皆さんが歌う「正解」の歌詞の一節を伝え、式辞といたします。

「よーい はじめ」

在校生 送辞

在校生代表 21期生徒会長

春風が心地よく感じられる季節となりました。本日、この佳き日に晴れて屯田北中学校を旅立つ卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私達在校生一同、心よりお祝い申し上げます。在校生を代表して送辞を述べさせていただきます。

先輩方は、今この屯田北中学校で過ごした3年間の日々の思い出と共に、新たな夢へと向かって心躍っていることでしょう。

私達が3年生の皆さんと交流や活動をする場は決して多くはありませんでした。しかし、3年生の皆さんの姿や行動を見て私達も成長することができました。

2年前私達が入学したばかりの時に優しく手を差し伸べてくれた先輩たちのお陰で中学校生活で初めてのことへの緊張や不安が和らぎました。楽しみだった初めての北中祭では、それぞれの部門で活躍する先輩方を見て圧倒されました。私達は「先輩みたいに自分の部門でもっと活躍し学校祭を盛り上げたい！」という憧れの気持ちを抱きました。

委員会や部活動での活動で困っていた私達を助けてくれたり、優しく声をかけてくれたことを今でも忘れません。令和7年度4月に初めての後輩ができて、「私達も今の先輩方みたいに頼りになる存在になろう」と努力しました。最初はうまくいかないことが多く、改めて先輩方の頼もしさを感じました。北中祭が終わるとだんだん委員会などの引き継ぎが行われ、自分たちが引っ張っていく存在になるのだと体感しました。それと同時に、頼りになる先輩として1年生を引っ張っていかなければならないと気持ちが引き締まりました。

送別集会では、3年生の皆さんの心のこもった歌声が体育館に響き、先輩方の偉大さを感じました。それと同時に3年生の先輩方と学校で過ごせる時間はもう残り少ないのだと寂しい気持ちが込み上げてきました。

こうして3年生のみなさんとこの屯田北中学校で過ごした2年間はとても充実していたとともに、あっという間でした。これまで先輩方におそわったことや、この2年間の素敵な思い出は忘れません。先輩方には感謝してもしきれないほどお世話になりました。本当にありがとうございました。先輩方が今まで支えてきてくれたこの屯田北中学校を今度は私達が引き継ぎ、支えられるよう努力していきます。

最後になりますが、もし先輩方が大きな壁にぶつかっても、先輩方が私達に優しく手を差し伸べてくれたように、助けてくれる仲間が周りにたくさんいることを思い出してください。そして諦めず様々なことに挑戦し続け、夢へと向かってください。私達在校生は、先輩方の卒業とこれから歩む道がより良いものとなりますよう、併せてご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

卒業生答辞

卒業生代表 20期生徒会長

冷たい風の中にも春の気配が感じられるようになり、桜の開花が待ち遠しい季節となりました。本日、このような素晴らしい卒業式を挙行していただき、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

この学校で過ごした3年間、私達は様々な経験を通し、沢山の思い出を作ってきました。3年前、少し大きな制服を着て入学し、慣れない環境に緊張しながらも、これからの学校生活に期待を寄せていました。やがて日常生活の中で仲間と打ち解け合い、私達にとって初めての学校行事である校外学習が行われました。グループに分かれてコースや場所を決めたり、見学した内容をまとめ、スライドを作ったりする中で、自分たちで一から考えることの大切さを学びました。

そして2年生。委員会や部活では後輩ができ、私達が中心となって活動するようになりました。そうして学校生活に慣れ始めた頃、気づくと私達はどこか落ち着かない日々を過ごしていました。お互いに傷つけてしまったり、時には周りに迷惑をかけてしまったり。正直、どう向き合えばよいのか分からなくなることもありました。ですが、そんな時間があつたからこそ、私達はどうしたら変われるのか、どうしたら成長できるのかを考えることができました。

3年生。修学旅行では新幹線やバスの中で仲間と会話をしたり、部屋ではゲームをしたりして楽しい時間を過ごしました。特に学年レクでは、借り人競走で盛り上がり、最後には全員で歌を歌いました。またハネト体験やクラスごとの見学を通して道外について多くのこと学び、私達にとって最高の思い出となる旅になりました。

そうして、あっという間に迎えた最後の北中祭。「学校祭を素晴らしい思い出にする」という1つの大きな目標に向かって協力し合い、沢山の準備を重ねました。当日は最高の1日となり、全力でやり切った達成感と仲間の笑顔は、今でも心に残っています。

他にも、私達には数えきれないほどの思い出があります。3年間、楽しいことも辛いことも経験してきました。しかし、そのすべての経験が今の私達の土台となっています。

これから私達は、それぞれの夢に向かって選んだ道へと進みます。その途中、不安になったり、大きな壁にぶつかったりすることもあるかもしれません。ですが、そんな時には、悩んで立ち止まり、考えてまた歩き始めたここでの日々を思い出し、最後まであきらめず、全力を尽くしていきます。

最後に、いつも私達に真摯に向き合い続けてくださった先生方。そばで変わらず支えてくれた家族。そしてここまで共に過ごしてきた全校の仲間たち。本当にありがとうございました。

私達は今日、胸を張ってこの屯田北中学校を卒業します。